

見えにくい女性の貧困

男性に比べホームレス少ないが…

仙台で講演会

女性ホームレスの現状から、背景にある女性と貧困の問題を考えようと、NPO法人「イコールネット仙台」が先日、仙台市青葉区のエル・ソーラ仙台で講演会を開き、約40人が参加した。野宿者や不安定居住者らの研究をする立命館大准教授の丸山美さんと、生活困窮者を支援するNPO法人「仙台夜まわりグループ」事務局次長の青木淳子さんが、人目を避けて生きる女性たちの厳しい暮らしぶりを報告した。



女性ホームレスの現状と支援活動について話す青木さん(右)と丸山さん。仙台市青葉区のエル・ソーラ仙台

丸山さんによると、全国に6000人超える野宿者のうち、女性は3%ほどで数は少ない。東京や大阪で聞き取りした33人の特徴と

夫や息子によるドメスティックバイオレンス(DV)などから逃れるため一だった。性別役割分業が社会に組み込まれた日本では、女性を専業主婦か非正規労働へ誘導する配偶者控除や年金の第3号被保険者制度がある。2015年の国税庁調査によると、女性の民間の平均給与は272万円と男性の半分程度にとどまる。

でも、世帯内で所得が平等に分配されているわけではなく、離婚するとすぐ貧困に陥るリスクが高い」と指摘。経済的自立が困難なため、DVなどの問題を抱えていても夫の扶養から離れられないこともホームレスが少ない要因とし、自立できる雇用環境と社会保障政策の充実を訴えた。青木さんは、男性支援者を怖がりたり、性的被害に遭ったりしがちな女性ホームレスを同性の仲間らと支えてきた。安心できる住まいの提供、料理教室やお茶飲みなどを通じて信頼関係

扶養に依存、経済的な自立困難 雇用環境の改善訴え

して、2回以上結婚している人や子どもがいない人が多く、低学歴で、総じて以前は低賃金の不安定労働に就いていたことを挙げた。

ホームレスになった理由は①夫と離別したが未婚の本人の失業②夫の失業③

夫や父親の扶養から外れた母子世帯や高齢の単身女性世帯の貧困率は高いが、丸山さんは「女性は野宿する一歩手前で福祉施策の網に掛かり施設を利用しており、ホームレスが少ない」と述べた。

しかし、「夫がいる女性

をつくり、2000年以降、50人近い女性が路上生活から脱したという。青木さんは「来年3月でホームレス自立支援法が終わる。宮城県は震災復興関連の仕事がなくなるこれからが正念場だ」と話した。